

地域とともにある学校づくり に向けた取組 (県立愛川高等学校)



H29.11.7

神奈川県立愛川高等学校

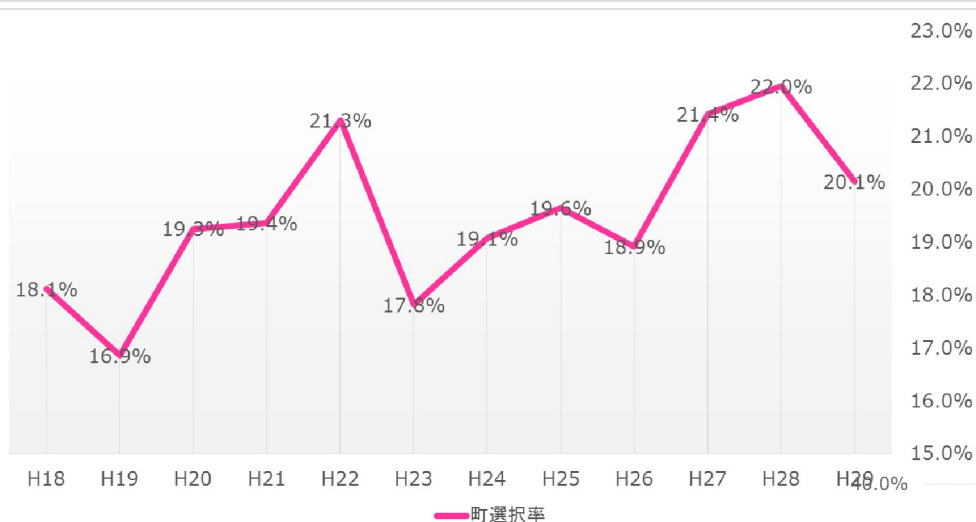
校長 大沢 利郎

愛 Aikawa high school

愛川高校の概要

- 沿革: 昭和58年4月開校
- 所在: 愛川町三増(町で唯一の県立高校)
- 課程・学科: 全日制普通科(3学期制)
- 学校規模: 18学級
- 在籍数: 680名
- 特色: 連携型中高一貫校

愛川高校は急速に改善してきた



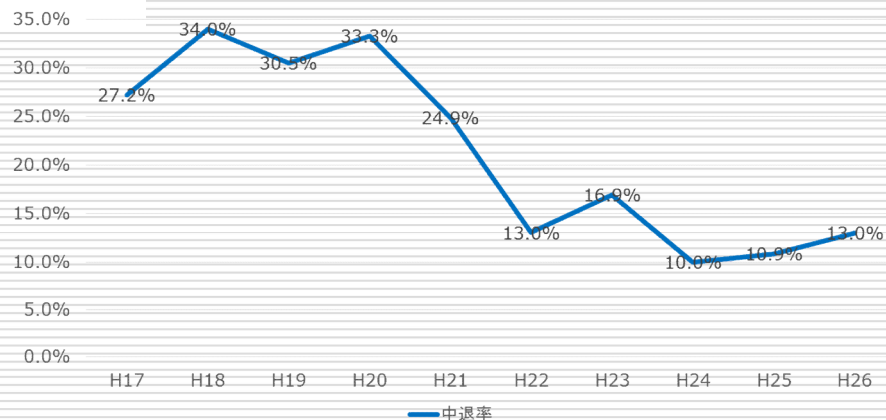
町の中学生の本校選択率

地域に学校を知っても
らう＝コミスクとなること
で職員にも、地域を
活用してはという意識

H21連携型中高一貫導入後、
急速に学校が落ち着いた

「愛川高校で学びたい」目的意
識を持つ生徒が、学校を変える

入学年次ごとの中退率



学校の課題・地域の課題(愛川高校の場合)

□ 愛川高校の課題

- 主体性、自己肯定感の向上
- 学びの姿勢の向上や積極的な進路選択
- 安定的な就職先の確保

□ 地域の課題

- 若者が都心の学校や企業に進学・就職し、戻ってこない(高齢化・転出超過)
- 産業構造変化により一層の転出を懸念
- 高齢者中心の取組で、若者の参加が課題

地域連携の狙い

□ 町に唯一の県立高校として町とともに歩む

地域が高校に関わり、地域課題に必死に取り組む大人の背中を見せる

＝10年後に町で活躍する人材の育成、
(高校生が課題意識をもち、町に帰ってくる)

さらに、現在の活動の活性化に

愛川高校のコミュニティ・スクールの取組

(平成27年:県教委コミスク指定)

学校運営協議会(協議会委員は県教委が委嘱)

- ・校長・学識経験者(近隣大学職員)・町教委(教育研究所所長)
- ・地域住民(地元行政区長)・PTA会長・同窓会長・元PTA会長
- ・地域ボランティア

《学校評価部会》

- ・学識経験者
- ・町教委
- ・地域住民
- ・元PTA会長
- ・同窓会長
- ・PTA会長
- ・地域ボランティア

《中高連携部会》

- ・学識経験者
- ・町教委
- ・連携中学教頭
- ・連携中学担当
総括教諭
- ・高校副校長/教頭
- ・高校担当総括教諭

《地域連携部会》

- ・地域ボランティア
- ・地域住民
- ・PTA会長
- ・元PTA会長
- ・高校副校長/教頭
- ・高校担当総括教諭

コミュニティ・スクール指定の効果

- 学校運営協議会が校長の学校運営をサポート
 - 校内、校外への学校運営方針の理解促進
 - 学校の情報や取組の外部への発信
 - 校長を通し、学校運営協議会としての意見具申ができる
- 多様な教育活動の展開、地域資源の活用
 - 部会を通じ、学校と地域の協働による教育活動の場の拡大（体験的学習、インターンシップ、ボランティアなど）
 - 地域の教育力（教育資源、人材）の活用
- 地域の方々の学校理解、学校側の地域理解の促進
 - 学校と地域の情報共有・協力・相互理解・連携
 - 教員の意識改革
- 学校の教育力活用による地域の活性化
 - 地域行事・学校行事での交流、学校施設の開放・活用

町の教育資源を活用し、町の学校に(取組例)

- 三増の獅子舞...授業に地域の保存会が参加
→卒業生が保存会に(伝統文化の継承)
- 社会福祉基礎...町の手話ボランティア活用
- // + 家庭科...地域の老人福祉施設活用
- いのちを考える...犯罪被害者の会 講演
- 町夏祭りでの神輿かつぎ...地域から好評
- 女子バレーボールの小学生バレー教室

取組の効果

□ 生徒側

地域からの感謝によって、自己肯定感の向上

□ 教員側

地域との連携による教育の質の向上の実感

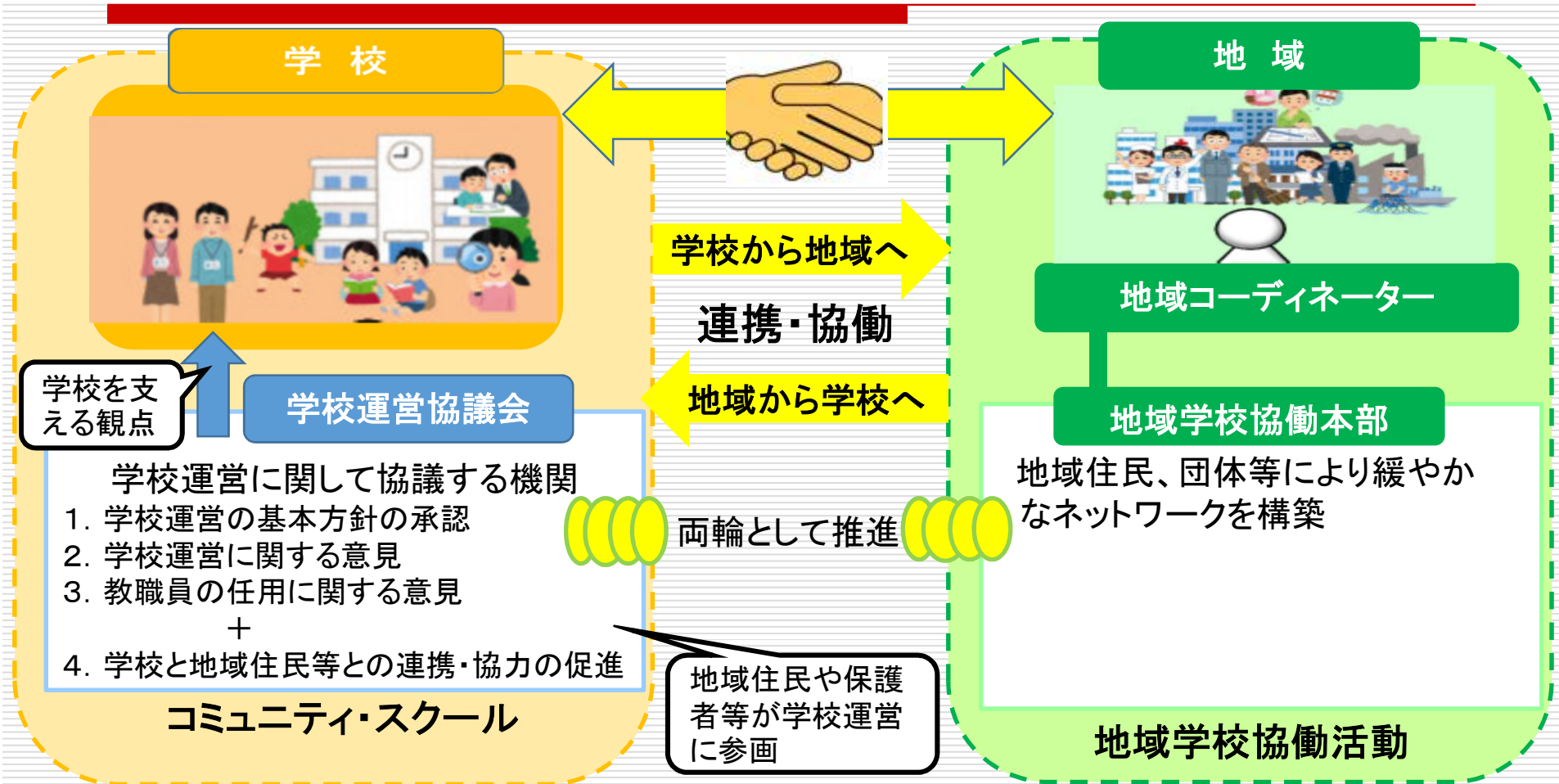
□ 地域側

地域の活性化

→学校と地域の意識が変容

地域連携を進めるためには、WIN-WINの
関係が必要

学校と地域の効果的な連携・協働と推進体制



F.G.C...Win-Winの関係作りの推進

- 愛川高校ファイヤーガードクラブ発足(H29)
 - 町の提案→校内組織を活用
 - 町消防・消防団が生徒を直接支援(将来の消防団員を期待)
 - 愛川災害ボランティアネットワーク(NPO)が組織を活用し、小学生対象減災教室＝活用は行政から地域へ拡大



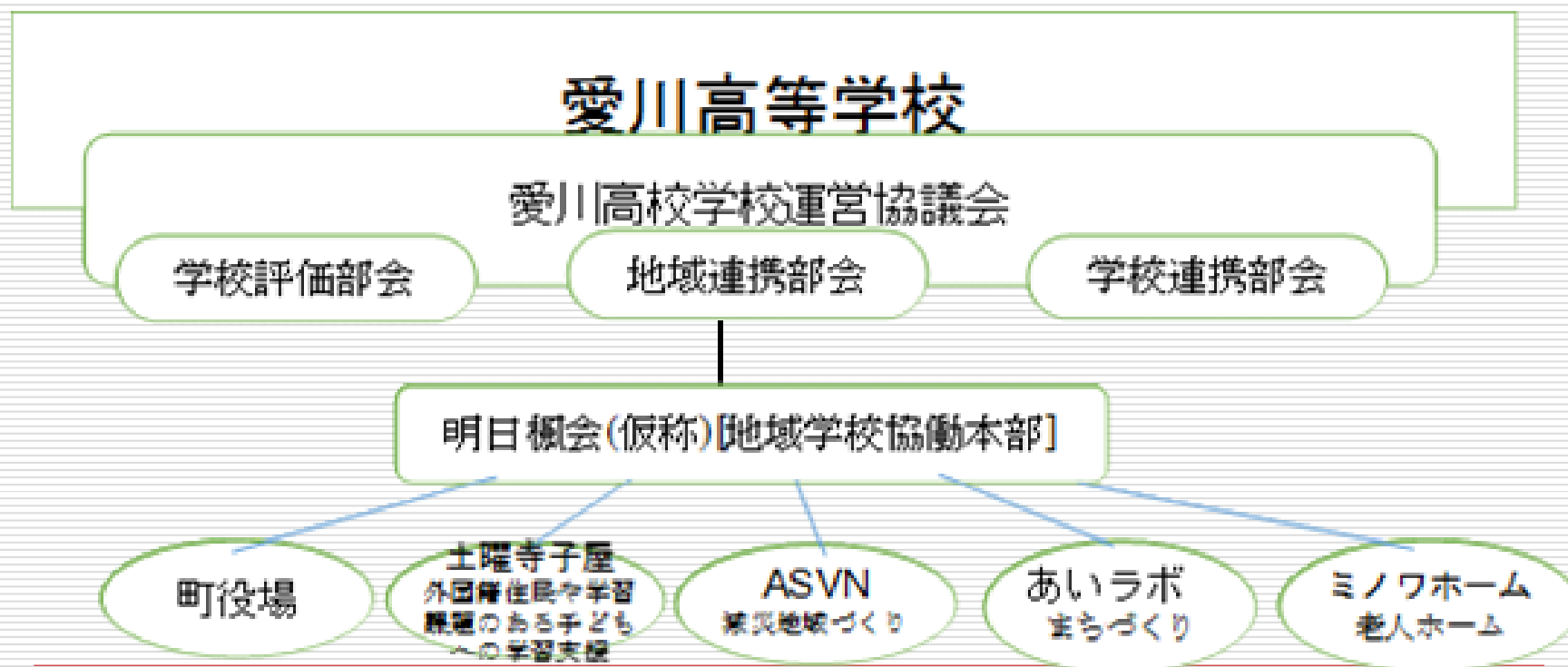
一層の協働のため、
調整組織を校外に設置



これからの取組

明日楓会＝地域学校協働本部

- 地域に軸足を置くことで、職員異動に影響されない永続的な支援組織づくりへ



地域学校協働本部の設置効果

□ 学校のメリット

- コーディネーターを配置することで、教員の負担が軽減、地域活動の継続性が確保
- 地域で活躍する大人と生徒が様々に関わることで、生徒の職業観の変化や地域貢献への意識向上
- 教育(キャリア教育等)の質の向上

□ 地域のメリット

- 若い世代を巻き込んだ活動で、活動が相互に連携、地域活性化に
- 若者(生徒)が町づくりに参加するようになる